



平成 21 年 8 月 4 日

知の拠点—我が国の未来を拓く国立大学法人等施設の整備充実について
～新たな価値を生み出すキャンパス環境の創造・発展～（中間まとめ）
（今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議）

このたび、今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議（主査：木村 孟 東京工業大学名誉教授）において、標記中間まとめを取りまとめましたのでお知らせします。

1. 背景

- (1) 国立大学法人等の施設は、世界一流の優れた人材の育成や創造的・先端的な研究開発を推進するための拠点であり、科学技術振興のための重要な基盤であることから、文部科学省では、第3期科学技術基本計画（平成18年3月閣議決定）を受け策定した「第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画」（平成18～22年度）（以下「第2次5か年計画」という。）に基づき、国立大学法人等施設の重点的・計画的整備を支援しています。
- (2) 現在、第4期科学技術基本計画の策定に向け、科学技術・学術審議会基本計画特別委員会において、今後の科学技術政策の在り方について調査検討が行われているところですが、第2次5か年計画に次ぐ新たな施設整備計画の策定に向け、標記会議において、本年2月より今後の施設整備の在り方について検討を進めてきました。
- (3) 本会議では、これまでの第2次5か年計画の実施状況や国立大学法人等施設を取り巻く状況と課題を整理した上で、今後の国立大学法人等施設整備における中長期的な対応方策等について、このたび、中間まとめとして取りまとめました。

2. 中間まとめのポイント

別紙参照

3. 今後の予定

本会議では、引き続き検討を行い、平成22年中を目途に最終報告をまとめる予定です。

<担当> 大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室
室長 山崎 雅男（内線 2294）
室長補佐 松永 鶴博（内線 2297）
電話：03-5253-4111（代表）、03-6734-2612（直通）

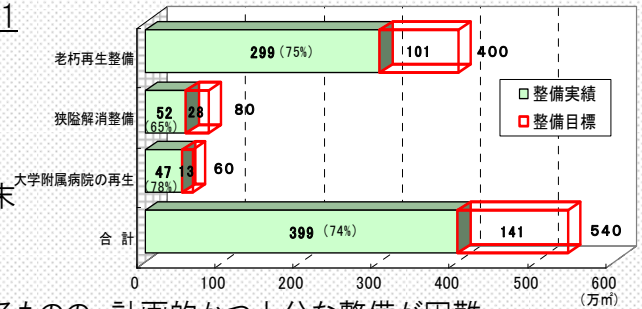
知の拠点－ 我が国の未来を拓く国立大学法人等施設の整備充実について ～新たな価値を生み出すキャンパス環境の創造・発展～ (中間まとめのポイント)

- ◆国立大学法人等施設は、国立大学法人等の使命を果たす基盤であり、人材育成や学術研究等の礎。
- ◆「第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画」(平成18～22年度)の進捗と施設の課題を整理。

○ 整備目標 (540万㎡) に対して残り約3割 (141万㎡) の整備が残存。本計画で耐震化を目指したI s値0.4以下の施設も、42万㎡残存。

○ このほか、以下のような課題を抱えている状況。

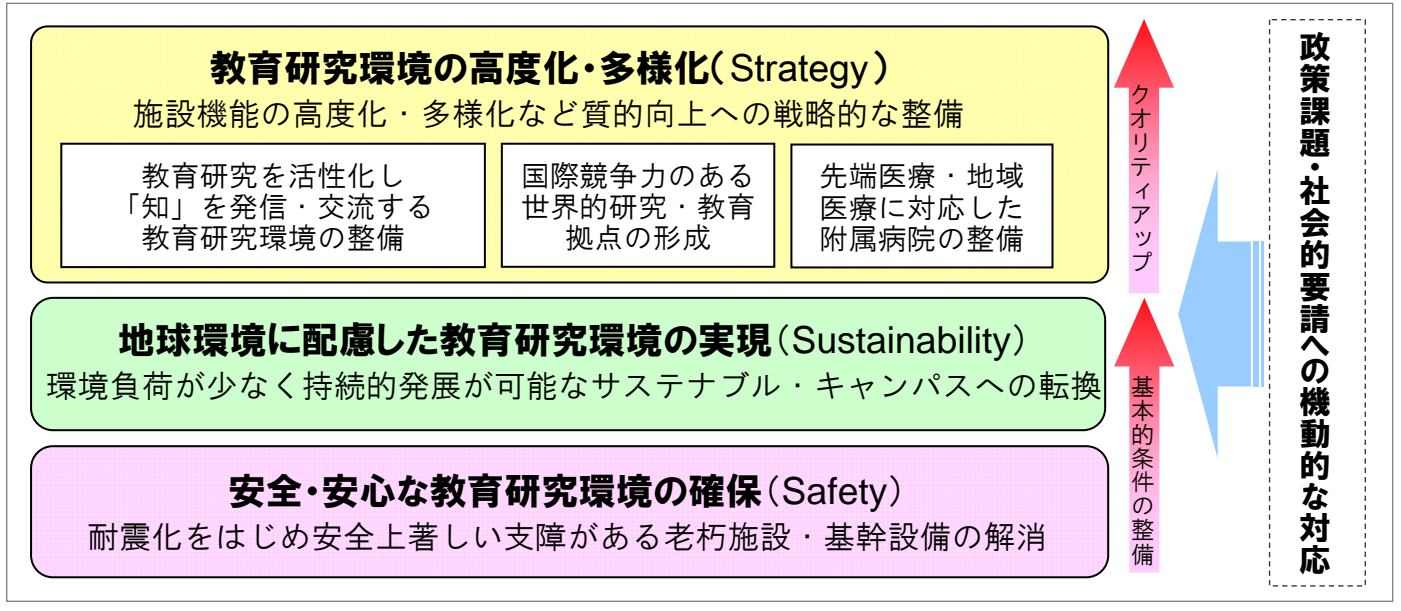
- ・安全上・機能上問題を抱える老朽施設は、平成21年度末推計で約650万㎡(全体の1/4)。
- ・狭隘化や医療環境の変化、地球環境問題等への対応。
- ・毎年度当初予算は減少しており、補正予算で対応しているものの、計画的かつ十分な整備が困難。
- ・諸外国ではキャンパス整備に重点投資。OECD各国と比して我が国の投資は最低水準。



- ◆これらの課題を踏まえつつ、各大学等が個性と魅力あふれるキャンパス環境を整備していくことができるよう目指すべき姿を整理し、計画的整備を推進するための中長期的な方策を整理。



- ◆今後重点的に整備が必要な施設を整理 (第2次5か年計画に次ぐ新たな施設整備計画の柱を提示)



国と国立大学法人等の役割分担を踏まえつつ、以下のとおり、必要な公財政措置の確保が不可欠。

- ◆第2次5か年計画の整備目標達成のためには、残り141万㎡の整備が必要。最終年度となる平成22年度までに目標達成に向け必要となる施設整備予算の確保が必要不可欠。
- ◆現在保有する施設を維持するための改修や改築の費用だけでも毎年約2,200億円(試算)以上の予算が必要であり、安定的整備を実現する施設整備予算の充実が不可欠。
- ◆今後、具体的な整備目標を含め、次期5か年間(平成23～27年度)の施設整備計画の策定が必要。